

## 鳥羽市総合教育会議 会議録

会議の名称	平成29年度第1回鳥羽市総合教育会議
開催日時	平成29年9月4日(月) 14:00～
開催場所	鳥羽市民文化会館 第3小会議室
議題	1. 鳥羽市の子どもたちの状況について 2. 教育の条件整備など重点的に講ずべき施策について 3. その他
会議資料	【資料1】平成29年度全国学力・学習状況調査の結果について(速報版) 【資料2】学校施設及び耐震診断状況一覧 【資料3】平成28年度社会教育事業の経過
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	0人
出席委員	市長 中村欣一郎、教育長 小竹篤、 教育委員 山下隆広、岡村忠夫、亀川聖子、江崎ユミ
欠席委員	なし
事務局	[鳥羽市総務課]寺田、奥村

### 開会・市長あいさつ

#### 1. 鳥羽市の子どもたちの状況について

学校教育課長より、鳥羽市の子どもたちの状況として、小中学校の学力・学習状況調査結果等を説明。

##### ○委員

朝の読書の時間を計算の時間に変更したり、「めあてと振り返り」を児童生徒に徹底させていると聞いており、一定の効果が出ているように思う。

##### ○教育長

都道府県のレベルでも、県内の市町のレベルでも、上位と下位の差が年々縮まっていると感じる。本市においても経年で見ると向上傾向にある。委員おっしゃる通り、「めあてと振り返り」の実践がよい方向に働いている。

##### ○委員

学力だけでなく、生徒指導上の課題も少なくなってきた。

##### ○委員

市長就任以来はじめてのこの会議であるが、市長の学力向上などに対するお考えは。

##### ○市長

鳥羽市の結果が高ければ嬉しいし低ければ悔しいが、学力に関する目標設定はしない考えである。

また、子どもの時に自己肯定感を培うことは、大人になってから郷土鳥羽を肯定できるようになることにつながっていくと考えている。学力は大切であるが、そういう考え方が備わっていることのほうが大事なのではないかと思う。人の役に立っているということが実感できる場を作ってあげたい。

##### ○教育長

学力・学習状況調査の中にも自己肯定感に関する設問があり、全国的には自己肯定感の高い子どもは学力もよい傾向が見られ、学校でも気を付けている。菅島での鳥っ子ガイドなどは自分を誇りに思えるような取り組みである。

##### ○委員

ただ、個別の事案をみとみると学力が高いからといって自己肯定感が高いとは必ずしも言えない。表彰状をもらったばかりで高まるものでもなく、先生や友達から認めてもらったと本人が感じる部分が大切なようだ。なかなか難しい。

##### ○委員

大きくなってくると、夢や目標にしていたことと自分の現状とのギャップが生じてきて、それを失ってしまう。また、年齢が増すにつれ、鳥羽に誇りを持ったり幸福感を得るよりも、悲観的な意見を言う人が

増えてくる。なぜ、良いところを声を大にして言わないのかと思う。

○市長

学力に関係なく活躍できるチャンスが多い世の中になってきている。

○委員

そう思う。学力に関係なく、地域のために役に立つことができる。保護者の多くがそういう視点に立っていただき、悲観的なことを言わないようになれば、もっとよい鳥羽になる。

○市長

親の世代に鳥羽を肯定する感覚が薄いので、芽を摘み取ってしまうこともある。周りの市町の一面だけを見てあそこのほうがよいと一括りに判断してしまわずに、良い面も悪い面も全て見て、冷静に判断することが大切だと思う。

## 2. 教育の条件整備など重点的に講ずべき施策について

教育委員会総務課長より、小中学校の耐震化、小中学校統合計画等の状況についての経過報告があった。また、学校教育課長より、答志島における離島留学の方向性についての経過報告があった。

## 3. その他

生涯学習課長より、図書館等社会教育事業の経過について報告があった。

○市長

図書館は休館日があってもったいない施設であり、毎日開けることができないかと考えている。予算的には現状維持を考えており、人員が少なくなって貸出窓口が混むなどのデメリットよりも、とにかく開いていることによりサービスが向上すると思っている。

○委員

よく図書館を利用するが、今の司書さんたちは非常によくやってくれている。休館日を無くすとどう回すか難しいとは感じる。ただ、図書館で本に触れることのできる市民は地理的に限られてもくるので、そういう方の「近くにある」ということも考えられるとよい。

○委員

県のほうでは、3年後に鳥羽以南の高校の再編をすると明言しており、鳥羽高校の存続には地域の協力姿勢も大きいと言われている。

○市長

県議の時にOBや地元の方々とは意見交換したが、あまり危機感がない。鳥羽高校の生徒のうち、鳥羽の生徒が3割ほどしかいないということも影響している。今少し火がついてきたところである。

○教育長

南勢志摩地区では、私立高校の定員の割合が高いので、地域の協力と同時に私立高校の定員を調整することも考えてもらわないといけないと思っている。